

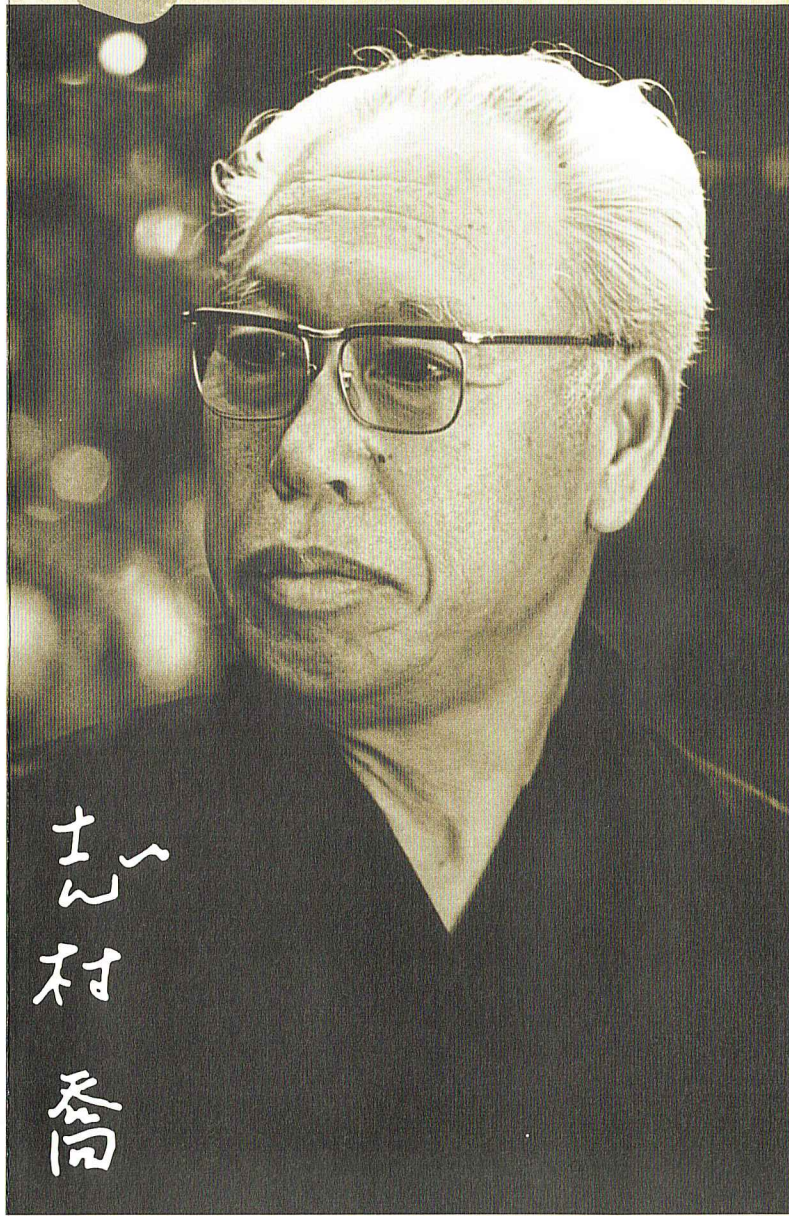
志村喬記念館

Shimura Takashi Museum

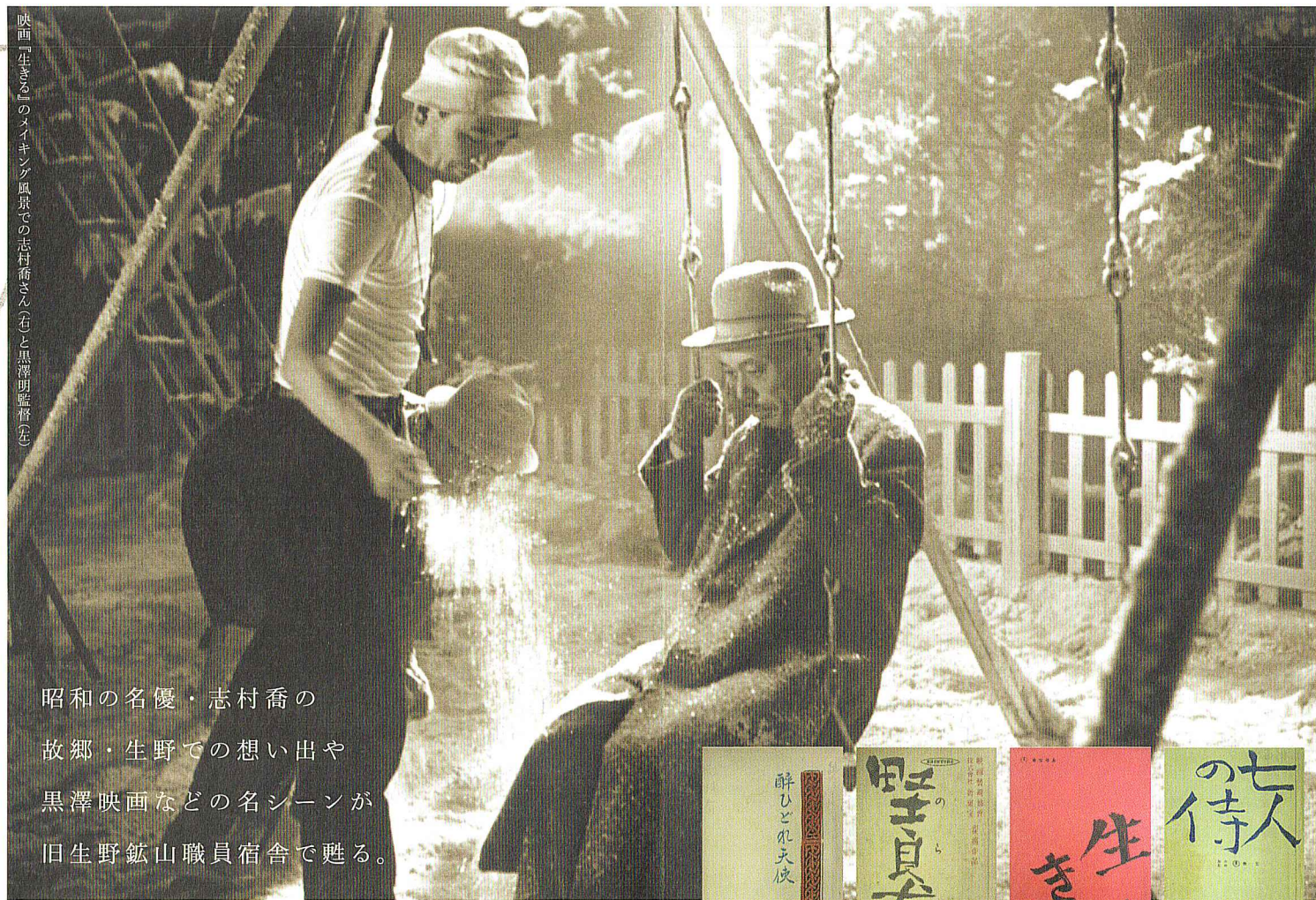


朝来市旧生野鉦山職員宿舎

甲社宅



志村喬



昭和の名優・志村喬の故郷・生野での思い出や黒澤映画などの名シーンが旧生野鉦山職員宿舎で甦る。



志村喬さんが出演した映画の台本

(東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵)

Profile

明治38年、兵庫県朝来市生野町生まれ。本名はしまきしうじ島崎捷爾。父・島崎毛登女は生野鉦山の冶金技師であり、志村は幼少時代を生野鉦山の社宅で過ごした。大学生の頃に役者を志し、舞台演劇等を経て、昭和9年に銀幕デビュー。昭和18年に黒澤明監督と出会い、のちに『生きる』『七人の侍』などの名作に出演。いぶし銀と称された存在感のある演技は、海外でも高い評価を受けた。出演した映画やテレビドラマ等の作品数は多数。昭和57年、永眠。享年76歳。

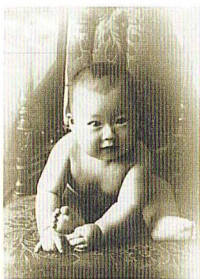


映画『酔いどれ天使』の撮影風景

Akira Kurosawa & Takashi Shimura

志村喬と黒澤映画

志村喬さんと黒澤明監督の出会いが昭和18年公開の映画『姿三四郎』でした。この映画は黒澤明監督の監督デビュー作品で志村喬さんは活動の場を京都から東京に移します。志村喬さんと黒澤明監督とは気が通じる間柄だったようで『酔いどれ天使』『野良犬』『七人の侍』『生きる』など数多くの黒澤映画の名作に出演し、さまざまな役柄を演じました。「いぶし銀」といわれた演技は、いまでも、色鮮やかに輝いています。



生後161日ときの写真



幼少期の写真



優秀賞受賞の記念写真(志村さんは写真左)

志村喬

Takashi Shimura

1905-1982

志村喬と生野鉦山

朝来市生野町は、かつて「鉦山」として栄えた全国屈指の鉦山町。志村喬さんは近代化が進むモダンな生野で、幼少時代を過ごしました。やんちゃ坊主だった少年時代は、山神社の境内が一番の遊び場。社宅の子どもたちと、かくれんぼや野球などを楽しみました。小学校では勉学にも励み、優秀賞も受賞。自慢の写真も残っています。昭和48年、兄・敬夫さんと生野に帰郷。当時は、生家だった甲11号社宅がまだ残っており、故郷の「我が家」で懐かしい笑顔と再会しました。



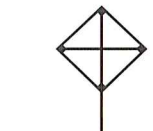
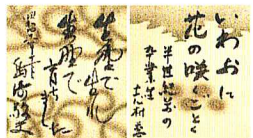
母親に背負われている子どもが幼少頃の志村喬さん



昭和48年に帰郷したときの写真



帰郷のときに講演で生野小学校を訪れた志村喬さん(写真中央)と兄・島崎敬夫さん(写真左)



甲7号 志村喬記念館



朝来市旧生野鉦山職員宿舎

志村喬記念館の建物は、甲7号と呼ばれる旧生野鉦山職員宿舎です。隣接する甲8号、甲9号とともに、明治9年の建築で、生野鉦山に勤務する当時の日本人職員用の「官舎」として建てられました。これらの3棟は朝来市生野町に現存する生野鉦山の職員宿舎のなかで最も古く、近代日本の生活様式が残る貴重な遺構として、平成17年から22年にかけて修復されました。志村喬さんの旧居は、甲11号と呼ばれた社宅で、現在はありませんが、玄関のそばにあった松の木が今も残っています。



志村喬さんのアルバムより



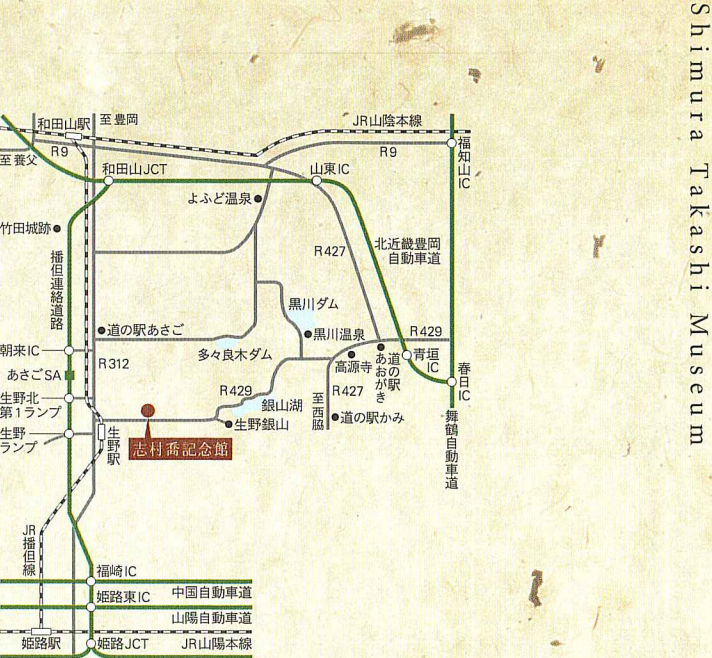
玄関のそばにあった松の木



雪景色の生野鉦山本部



志村喬さんご自身が描かれた生家の社宅のスケッチ(『オール讀物』昭和54年6月号掲載)



◎交通アクセス
 [車] 姫路から約1時間、京阪神から約2時間、福知山・綾部から約1時間(播但連絡道路経由)
 [鉄道] 姫路から約1時間、京阪神から約2時間15分、福知山から約1時間15分(JR播但線生野駅下車、徒歩約15分)

志村喬記念館 Shimura Takashi Museum

朝来市旧生野鉦山職員宿舎 甲社宅

〒679-3301 兵庫県朝来市生野町口銀谷697番1
 Telephone & Facsimile 079-670-5005
 https://asago-net.jp/users/kousyataku/index.html
 E-mail: kousyataku@asago-net.jp
 ◎入館無料 ◎開館時間/午前9時~午後5時(入館午後4時30分迄) ◎休館日/月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始



Facebook



HP

朝来市旧生野鉱山 職員宿舎 [甲社宅]

かつて「佐渡の金、生野の銀」といわれた兵庫県朝来市生野町。生野鉱山は、明治時代の近代化で、鉱山、工場、鉱石輸送路、水路、職員住宅などが一体的に開発された全国でも珍しい鉱山町です。生野のまちに、今も息づく繁栄時代の古い民家。その町並みに平成22年9月、「甲社宅」の通称で親しまれた鉱山職員の住宅が朝来市旧生野鉱山職員宿舎として再生しました。甲7号、8号、9号は、生野に現存する鉱山職員の住宅で最も古く、日本人の近代の生活様式を残す貴重な遺構です。甲8号と甲19号は明治時代に、甲7号は大正時代に復しました。甲9号は昭和の中ごろの住宅様式に復しています。甲7号は、甲社宅で誕生された黒澤映画の名優・志村喬さんの功績を展示した「志村喬記念館」として閉館しました。



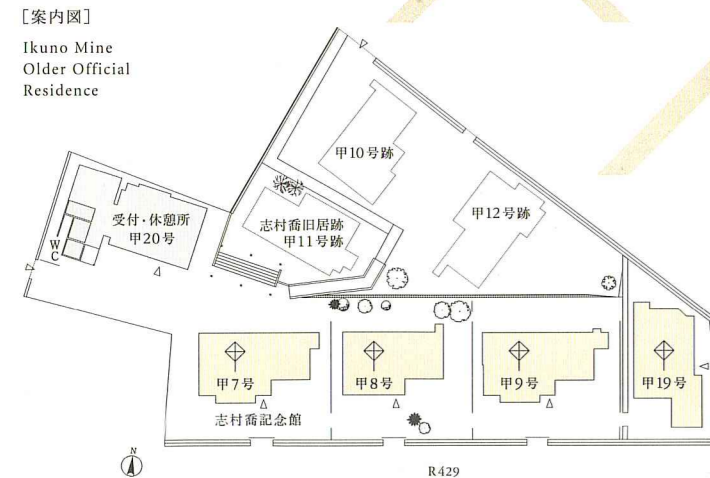
生野鉱山と官舎

生野鉱山が歴史上の文献に登場してくるのは、天文11年(1542)に銀を産出したという「銀山旧記」(1690)の記述からですが、開坑はもっと古い時代にまで遡るともいわれています。この頃、中世には山名氏がこの地を治め、江戸時代は幕府領として栄えました。明治維新を控えた慶応4年(1868)、薩摩藩を中心とする官軍によって制圧され、明治維新後には日本で最初の官営鉱山となりました。明治元年には早くもフランス人鉱山技術者のコワニエ(F. Coignet, 1835-1902)の指導の下に殖産興業のモデル鉱山として近代化が図られました。



生野鉱山の基礎を築いたF.コワニエの肖像

旧生野鉱山職員宿舎は、生野鉱山に赴任した官吏・技術者のための官舎として明治9年(1876)に建てられました。この頃、生野には外国人のための宿舎と職員のための住宅が数多く建てられました。生野鉱山はその後、皇室領を経て明治29年(1896)には三菱合資会社に払い下げられましたが、その時、住宅施設も一括して譲渡され、甲社宅の通称で近年まで使われてきました。これらの住宅は、現在朝来市の所管下であり、甲7号、8号、9号、19号は朝来市指定文化財になっています。

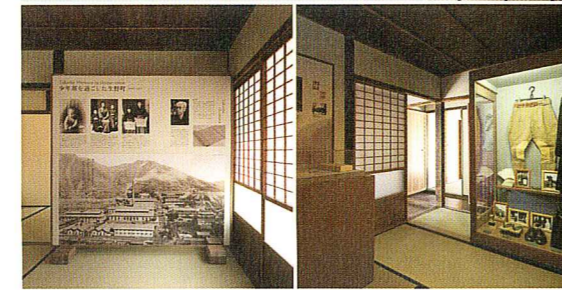
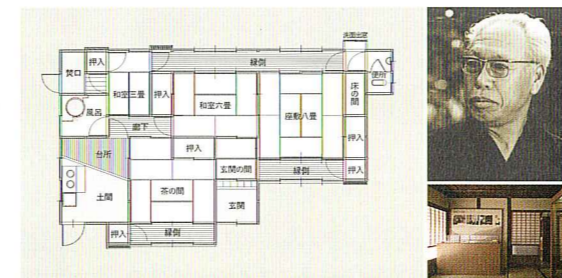


甲7号
Ikuno Mine
Older Official
Residence

大正期に復原 志村喬記念館

- ・7号は煉瓦積みによる台所の増築などがよく残存し、座敷や縁など内部の状態が相対的に良く残っている。
- ・後年の増築部分はできるだけ保存：茶の間と縁側、台所西側の半間増築部分、玄関まわりの改築(縮小)、他。
- ・台所は一部床板を張りとし土間に復す。煉瓦のお竈と人造石の流しを設ける。
- ・風呂は長州風呂(五右衛門)に戻す。
- ・建具は木製ガラス戸(雨戸と併用)障子は一部ガラス入り。

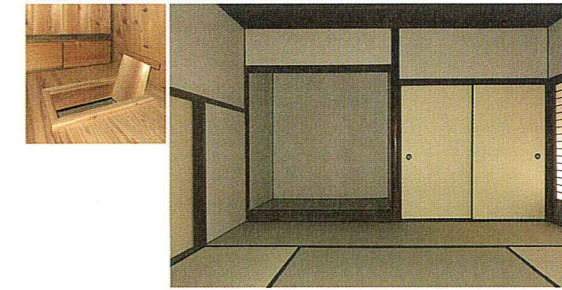
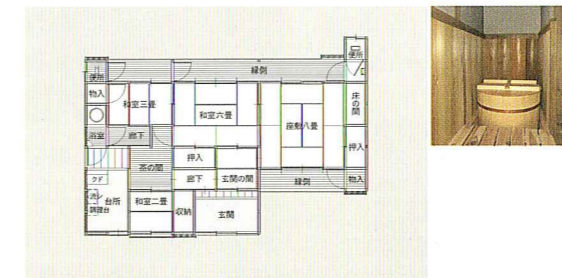
Shimura Takashi Museum



甲8号
Ikuno Mine
Older Official
Residence

明治9年の状態に復原

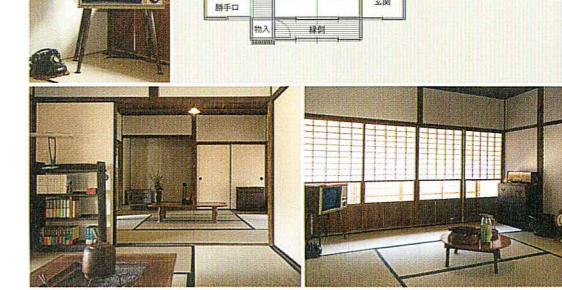
- ・最も粗雑な改造がなされているため、それらの改造部分を取り除いて、明治初頭に復す。
- ・ガラス戸は無く、雨戸と障子のみの状態に復す。
- ・玄関は間口1間半に復す。
- ・台所は土間に復し、お竈と板製置き流し台(上水なし)
- ・風呂があったかどうか不明であるが、用途が分からなかった部屋に木製風呂桶(焚き口無し)を置き、体を洗う場所として推定復元。
- ・南側の縁は当初の形態に戻し、東側の便所を復原、西側の便所も復原(便所は利用不可)。
- ・建具は雨戸のみ、板扉、襖とするが、障子は全て腰板付障子。



甲9号
Ikuno Mine
Older Official
Residence

昭和初期から昭和30年代までの期間に復す

- ・9号はそのまま使えるほど残存状態がいいので、あまり手を加えずに昭和初期に戻す。
- ・宿泊体験することができるように、台所の設備類や便所の機器は現代の設備を用いる。
- ・三畳部屋(撤去)を除き、原則として現況間取りを優先する。
- ・建具は木製ガラス戸とし、雨戸を設ける。
- ・風呂は長州風呂(五右衛門)とし、床や腰壁は人造石研ぎ出しとする。
- ・空調：体験者の利活用のため床置タイプを設置。



甲19号
Ikuno Mine
Older Official
Residence

明治29年以降明治後期、時代が輻輳した状態であることから、構造的な補強を行う他は現状を尊重

- ・19号は転用材が多く使われ、保存状態も極めて悪いため、現況を留めつつも、可能であればこの建物が建てられたと推察される三菱社有以後、すなわち明治後期を一応の目処として復す。
- ・地区住民の利用が可能なように、台所の設備類や便所の機器は現代の製品を用いる。
- ・風呂はタイル張りとし、2名程度の使用が可能な現況の広さを確保する。
- ・窓廻り、ガラス戸などの意匠を残す。
- ・小屋組、壁、床等に適切な補強を行う。
- ・空調：体験者の利活用のため床置タイプを設置。

